

vol.13  
2009.12

# 三菱農機 だより

MITSUBISHI NOUKIDAYORI



三菱農機株式会社  
代表取締役社長  
清水敏昭

## 三菱農機が30周年に感謝、さらに一層の飛躍へ

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

三菱農機は、昭和55年に発足以来、平成22年2月をもちまして、30周年を迎えることになりました。

顧みますと、この30年、幾多の経済変動や農業構造の大きな変化に直面しつつも、当社が今日まで事業を継続し、発展させていただく事ができましたことは、偏に多くのお客様のご支援とご愛顧の賜と衷心より深く感謝申し上げます。これを機に、農業機械を通じて農業の発展に貢献する企業であり続けたいとの思いを新たに、グループ一丸となってお客様の信頼にお応えし、社業に邁進いたす所存でございます。

今後とも、倍旧のお引き立て、ご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。



# あらたな農業情勢にどう対応するか。 今後の農業経営の方向を探る。

新政権の発足により、農業情勢は大きく変わろうとしています。新しい農業政策「戸別所得補償制度」とはどのようなもので、これからの農業経営にどのような影響が出てくるのか。農業政策に詳しい東大農学部長の生源寺眞一教授に解説していただきました。



東京大学  
大学院農学生命科学研究科長  
農学部  
生源寺眞一教授

profile  
1951年愛知県生まれ。76年東京大学農学部卒業後、農水省農事試験場研究員、北海道農業試験場研究員を経て、東大大学院農学生命科学研究科教授。07年同研究科長、同農学部長。



おコメ美味歳々

**Q 不況の荒波が押し寄せていますが、日本の農業には今後どのような影響があるのでしょうか？**

**A** 今回の不況で日本の農業にも少なからぬ影響が及んできています。たまたま日本はアジアの一員です。このことは幸運だと認識すべきだと思います。中国はまだ成長し続けるでしょうし、タイも成長途上にあります。これらの国々では所得もあがり、食生活も豊かになって、日本からアジア諸国への農産物の輸出は、近年伸びているのです。この地理的な幸運を利用すれば、アジア諸国へ輸出が期待できます。

**Q WTO(世界貿易協定)の交渉が大詰めに来ていますが**

**A** WTOの交渉においても、アジアにおける共通の農業事情(農業生産物輸入国)もあり、共同して対応すべきだと思いますね。交渉は現実問題としてどこかで妥協するしかないでしょう。かりに妥協して関税が下がると、直接支払いが必要になります。ただ、ヨーロッパ(EU)はすでに直接支払いに移行していますが、それらの国々では、ひずみが

**ご当地ソング。**

日本各地の美しい場所を沢山歌わせてもらっています。それがご縁で、あちこちにおじゃますることが多いですね。「鳥取砂丘」を歌った時には、地元で『水森かおり弁当』『水森かおりのお酒』等を作ってくださいましたし、「釧路湿原」の時には歌碑まで作っていただきました。それぞれ地元で歓迎していただき、色々お世話になってるんです。そして旬のものを頂けるのが、贅沢で本当においしいですね。いつも楽しみにしてるんです。

生じている面があります。市場で得る金と政府からもらえる補助金を比較すると、市場のほうが圧倒的に少なくなっているからです。こうした状態が好ましいとは思えません。

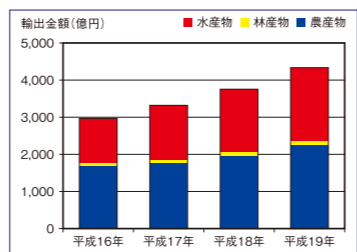
**Q 生産調整(減反)の見直しは？**

**A** いきなり減反を中止することはできないでしょう。システムを変えるのであれば、できるだけ副作用の少ないシステムにすべきです。たとえば選択的な生産調整。これは「減反に参加する人には、小規模農家であろうと専業農家であろうと、ある水準までの所得は補償するけれども、減反に参加しない人は市場価格でやってください」というシステムです。従来の減反で問題なのは、米以外の助成とリンクさせたことです。これまでは、麦や大豆の転作助成を得るには、米の生産調整に参加する必要がありました。しかし、これでは減反に参加しない人は全部米を作ってしまう。作付けの体系からいえば、米に麦や大豆を組み合わせるほうがいい場合でも、米を少しでも多く作りすぎると転作助成金がゼロになるので、それなら全部米を作ってしまう、ということになるのです。

**千枚田を頂きました。**

私、実は田んぼのオーナーなんです!すごいですね。2008年に「輪島朝市」という曲を歌わせていただきました。これがきっかけで地元、輪島市の皆さんから千枚田をいただいたんです。海の見える傾斜地に沿って、いくつも段々になって田んぼが広がるすていさいなところなんです。いただいたのは一枚なんですけど、始めはビックリしてどうしようかと思いました。なにしろ東京出身で、農業体験は全くありませんからね。でも、地元の方に色々教えていただいて二

日本の農林水産物の輸出推移



世界的景気後退にもかかわらず、日本食の広がりや、富裕層向けに日本産農産物の輸出が急増している

これでは合理的な作付体系が成り立ちません。やはり、米の政策は米で完結していないといけません。

減反に不参加の人には資金を貸さないというような差別もやめるべきでしょう。差別するような光景を若い人が見れば、農業に対する見方がネガティブなものになってしまいます。それは農業の未来にとって不幸なことです。

人を大切にしないシステムは、いずれ崩壊してしまいます。将来のことを考えるなら、できるだけフェアなシステムにしなければなりません。若い人ややる気のある人を大事にするという思想でシステムを構築すべきだと思っています。

**Q 新政権は「戸別所得補償制度」を打ち出していますが？**

**A** 導入予定の戸別所得補償制度は、作物ごとに販売価格と生産コストの全国平均を出し、赤字になる場合には生産目標に従った参加者全員に一定の補償額を給付するというものです。生産目標に従った農家がかりに黒字であっても、補償金が支払われます。選挙戦の段階で民主党では麦や大豆などについても目標数量を決めるとしていました。米以外の農産物は生産量が不足しているため、生産量をふやすほど手厚い補償を受けられるようにしようというのです。しかし、このようなしぼりは無理があります。現実には麦と大豆はほぼ100パーセント「水田畑作経営所得安定対策」の対象になっていて、すでに補償されている点も重要です。麦と大豆は、機械の有無で効率が大きく左右されるので、ブロックローテーションなどで組織的に機械を使って耕作してきました。これは地域で長い間かけて築きあ

げてきたシステムです。このシステムを壊さないように配慮したいものです。

**Q これまでは担い手を支援してきましたが、今後はどうなるのでしょうか？**

**A** 稲作では、高齢化が進み、世代交代が進んでいません。高齢化が進むと、当然作業を委託するケースがふえますが、受託する人はほとんどふえていません。

農地集積加速化事業は、農地の貸し手に補助金を与えようというものでしたが、助成するのならむしろ農地を借りる人のほうでしょう。農地を借りて大規模にやっている人は、まだ果実を得ていないのです。先頭に立ってやっている人たちをいかに元気づけるかが、これからの課題になるでしょう。

作業の受委託を進める方法に集落営農があります。これについては、私も色々な会議で議論してきましたが、メリットがあります。

個別の経営は人が先行しています。まず経営者がいて、土地を集めて規模を拡大する。一方、集落営農はまずまとまった土地の確保が先行していて、ここにやる気のある人が出てくる。どちらでも行き着く先に違いはありません。手法はどちらでもいいのです。大事なことは、主役になってやる人をどうやって支えるかですね。

**Q 農政は、今後どのような方向へ向かうのでしょうか？**

**A** 選挙を意識したイメージ先行型の政策はいかがなものでしょうか。農政は農家の将来まで見据えたものでなければなりません。日本の農業はいつも政局に右往左往させられてきました。これでは農家もどういった経営方針を立てていけばよいか戸惑います。機械を購入するにしても、耐用年数がく



るまで政策が変わらないのか不安になりますから、投資もできなくなります。できるだけ、安定した政策を続けてほしいというのが農家の皆さんの本音でしょう。

**Q 今後の農家はどのような経営をすればよいのでしょうか？**

**A** 水田農業の規模を面積で測る時代は終わったと思っています。これからの農業は、経営の中身で判断すべきではないでしょうか。とくに経営の厚みを増すことを考えるべきだと思うのです。

私はある農業賞の審査委員長をやっているのですが、近年は水田農業の人が受賞するケースがふえています。彼らは稲作だけでなく、たとえば加賀野菜や施設イチゴなどを作って、集約的な作物と組み合わせています。また、特別栽培米などを作って消費者に発信する人や、自分で販売する人もふえてきました。

彼らを見てみると、これからは狭い意味での農業にとどまっている必要はないということがよくわかります。川下の販売に手をつけていいし、観光農業という分野に手をひろげてもいいでしょう。いずれにせよ、若い人をひきつける農業を打ち出さなければなりません。

他産業から入ってくる人も積極的に受け入れるべきです。他産業で培ってきた能力を、農業で活かしてもらえばいいのです。いずれにしても農業者の今後の奮闘に期待したいですね。

*Kaori Mizumori*  
さととは東京だと思っていたけど、いまでは歌の舞台が全部私のふるさとと思っています。ですのでもこれからも歌ってふるさとをどんどん増やしていこうと思っています。

**日本全国がふるさとです。**

来年でデビュー15周年なんですが、健康の秘訣って特になんないです。偏食しないで各地の美味しいものを頂いているのがいいんじゃないでしょうかね。以前は自分のふる

水森かおり(みずもりかおり)さん  
東京都出身。1995年「おしろい花」でデビュー。「ご当地ソングの女王」と呼ばれ日本全国で愛されている。2003~08年、紅白歌合戦連続出場中。2009年、新曲「安芸の宮島」発表。



# こんにちは 三菱です —ユーザー紹介—



▲三菱コンバインの前で藤滝さん(右)、古川さん(香川三菱)



▲綾川の左岸に広がる圃場と藤滝さん宅(中央奥)



▲掘り取り直後の鳴門金時



▲家族総出で収穫作業



▲機械化された「残つる回収作業」

香川県のちようど真ん中、綾歌郡綾川町。  
温暖な気候に恵まれて、伝統の米づくり。  
「讃岐うどん」の需要が増え麦は  
いくら作っても足りません。



稲作 11ha:  
品種:コシヒカリ/ヒノヒカリ/もちごめ  
経営規模 麦 8ha  
品種:さぬき夢2000

香川県 綾歌郡綾川町  
藤滝 隆雄さん(56歳)



ります。毎年6月の御田植え祭は伝統の様式に従って、厳かにまた賑やかに過ごされます。米づくりが盛んな由縁です」と藤滝さんは自慢します。「うちではお米は育苗から、田植え、管理作業、刈り取まで、ほとんど一人でこなしてきました。作業の機械化でここまで何とか規模拡大してきました。でもこれからは量より質の時代、おいしいお米づくりに力を入れたいと思いますね。そのためには、さらにキメの細かい肥培管理が必要です。」

作業はしんどいのですが頑張ります。良質米づくりには欠かせない乾燥・調整・保存のため、自前の施設をもっています。質の時代に対応する自信がありますね」

「すっかり有名になった讃岐うどんの麦作ですが、それに劣らぬ『讃岐米』というブランドがあることを忘れないでほしい」と藤滝さんはいいます。

**讃岐うどんは全国的ブランドに成長。麦作強化で休耕地はありません。**

「讃岐うどん店が増えたことや産地表示の問題で、讃岐産の麦の需要が爆発的に増えています。麦はいくら作っ

ても足りないくらいです。JAから毎年増産の依頼が来ています」と藤滝さんはいう。「麦は裏作で作りますが、この辺は砂地の圃場が多く、水はけが良いので、麦作にも適しています。麦の需要が多いのでこのあたりでは休耕地などはほとんどありません。」

作業は一年中ありますので、大型機械を導入して楽にしたいと思っていますがどうしても機械化できない部分もあり、今の規模で手一杯です。特に農業は草との戦いだと言われ、夏場の除草作業はしんどい作業です。除草作業を機械化し、もっと規模の拡大を図りたいのです」と機械化への意欲は旺盛です。

好調な麦作を背景に、新戦力のお兄さんの手も加わって、ますます高成績の経営が予想されました。

徳島県鳴門市付近で甘藷栽培が始まったのは100年も前からといわれます。松田さん宅では、お父さんの治夫さんの代から本格的に甘藷にとり組むようになりました。「甘藷は長くお米の代用食として扱われてきましたが、昭和40年代になると、その栄養価の点から健康食として見直され、同時に品種改良も進み、上品な甘味の鳴門金時が各地で珍重され、需要が急に増えました」と松田さん。



▲名物の讃岐うどん

全国ブランドに成長した名産の「鳴門金時」。  
家族で支える甘藷づくり。うねたて、植え付け、  
管理、つるきり、掘り取り忙しい作業をこなし、  
苦労と努力で好業績。

徳島県鳴門市付近で甘藷栽培が始まったのは100年も前からといわれます。松田さん宅では、お父さんの治夫さんの代から本格的に甘藷にとり組むようになりました。「甘藷は長くお米の代用食として扱われてきましたが、昭和40年代になると、その栄養価の点から健康食として見直され、同時に品種改良も進み、上品な甘味の鳴門金時が各地で珍重され、需要が急に増えました」と松田さん。



野裁専業  
経営規模 さつまいも3ha(鳴門金時)  
大根5a

徳島県鳴門市大津町  
松田 禎弘さん



▲収穫前のつる巻き取り作業



▲鳴門仕様の三菱トラクター

**四国一の大河・吉野川河口の砂地が栽培地域。「鳴門金時」**

「不思議なことに鳴門金時の栽培地区は吉野川河口の砂地の地域に限られます。銀砂と呼ばれる川砂が生育に必要な特殊なミネラル分を含んでいるからだといわれます。各地で試験栽培をしているときまますが成功していないそうです。」

水はけの良い砂地は湿気を嫌う根菜類の培地には適しています。畦たて、整形など培地づくりも比較的簡単ですね。最近、都市化の影響で砂浜が減り、補充しなければならない「手入れ砂」が不足しがちで困っています」と悩みもあります。

松田さん宅では鳴門金時は10aあたり3トンを目安に栽培しており、市況は厳しいが甘藷と大根の専業で経営しています。

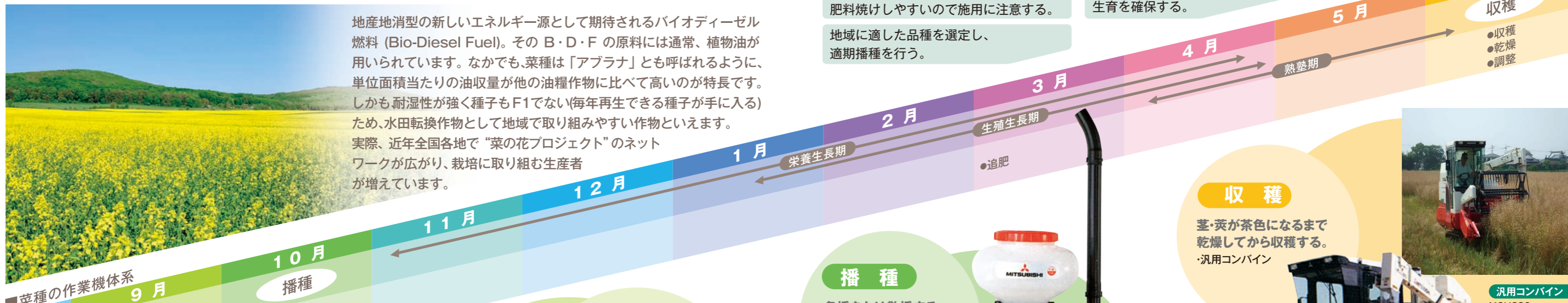
「2月から始まる作業は土壌改良から整地、畦たて、マルチ、移植、施肥、防除など秋の収穫まで急がしい作業体系がつづきます。ほとんどの作業を専用機でこなしています。特に多用するトラクターの性能が重要ですね。砂地を牽引するパワーがあること。畝を跨いでの作業が多いので高床式車輪の鳴門仕様のトラクターを導入しています。「つる巻き取り機」や「つるべら」なども大変役立っています」と松田さん。

「甘藷と大根の専業ですが、二つとも重量野菜です。収穫・運搬作業をもっと軽減したいところです。機械化は進んでもまだまだ人手が必要です」まだまだ、家族の支援が欠かせません」松田さんは言う。父親の治夫さん、母親の昌さん。奥さんの貴美子さんの家族総出の忙しい収穫作業がつづいていました。



# 水田転換畑・水稲裏作の油糧作物として 菜種が注目されています

地産地消型の新しいエネルギー源として期待されるバイオディーゼル燃料 (Bio-Diesel Fuel)。その B・D・F の原料には通常、植物油が用いられています。なかでも、菜種は「アブラナ」とも呼ばれるように、単位面積当たりの油収量が他の油糧作物に比べて高いのが特長です。しかも耐湿性が強く種子も F1 でない(毎年再生できる種子が手に入る)ため、水田転換作物として地域で取り組みやすい作物といえます。実際、近年全国各地で“菜の花プロジェクト”のネットワークが広がり、栽培に取り組む生産者が増えています。

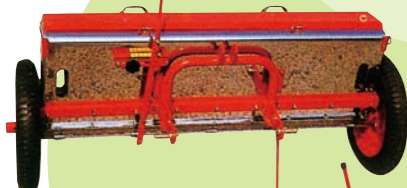


時期	9月	10月
栽培法	播種準備作業	播種
作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水対策</li> <li>土づくり(基肥散布)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>耕うん・攪拌</li> <li>防除</li> </ul>

## 土づくり・施肥

有機物の補給で地力を維持。石灰散布で酸度調整。

- ・ブロードキャスター
- ・石灰ソウ
- ・マニアスプレッダ
- ・ローター



石灰ソウ

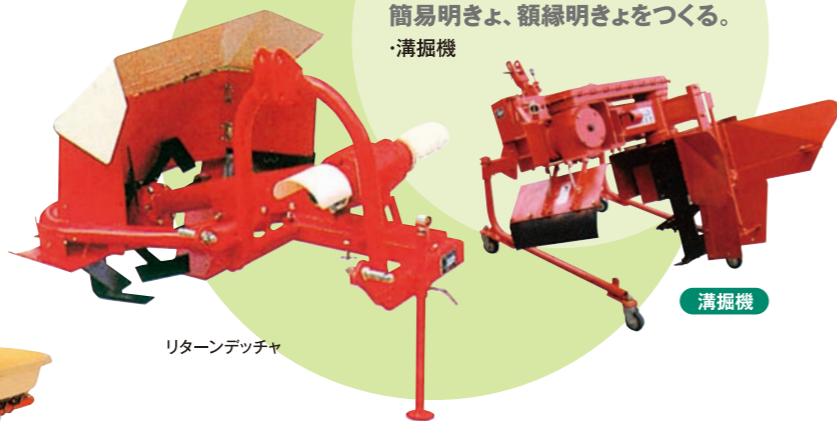


ブロードキャスター

## 排水対策

地下排水性の高い圃場を選ぶ。簡易明きよ、額縁明きよをつくる。

- ・溝掘機



溝掘機

## 耕起・整地

麦と同様に広幅のうね立てをする。

- ・ロータリ
- ・プラウ
- ・ハロー



ロータリ

スタブルカルチ

## ●栽培のポイント●

生育初期に湿害を受けると発芽が阻害されるため、十分な排水対策が必要。

基肥を施用する。肥料焼けしやすいので施用に注意する。

地域に適した品種を選定し、適期播種を行う。

覆土深が 3cm 以上にならないよう、播種後に 2 ~ 3cm の耕耘・攪拌を行う。

追肥を適正に行い(3月初頭)、生育を確保する。

## 播種

条播または散播する。

- ・ロータリシーダ
- ・ハローシーダ
- ・動力散布機(散粒機)

ロータリーけん引 播種機 370 タイプ



背負動力散布機

## 防除

播種・覆土後、除草剤を散布。

- ・トラクタ用ブームスプレーヤ
- ・乗用ブームスプレーヤ



ブームスプレーヤ

## 収穫

茎・莢が茶色になるまで乾燥してから収穫する。

- ・汎用コンバイン



汎用コンバイン MCH380

## 乾燥・調製

粗選別してから乾燥し、さらに精選別する。

- ・乾燥機
- ・揺動式選別機



乾燥機

ハイパー乾燥機 WINDY (遠赤型)

選別機 大豆選別機







1980年、三菱農機は誕生しました。

お陰様で三菱農機発足30周年。

記念セール実施中です。

農業機械をお求めのビックチャンスです。

この機会をお見逃しなく各地の展示会へお出かけください。

感謝…そして飛躍  
～これまで、これから～

## 三菱農機

# 30周年キャンペーン

30周年を記念して記念限定車が登場。さらに、型式追加車も発表いたします。



限定

GS200D

- ・赤色フード
- ・サンバイザー



限定

GO300/320/340(H) DXV

- ・リヤスモークガラス
- ・サンバイザー
- ・ハンドルカバー
- ・リヤオーバーフェンダ
- ・ルームミラー



型式追加

GO260/280/300/320/340XBM

- ・前後各2灯作業灯
- ・マニュアル変速
- ・b-mac油圧制御



限定

LV4E

- ・パワステ
- ・バックアップ
- ・AZ(アゼ)アーム



型式追加

LV4D

- ・パワステ
- ・バックアップ
- ・まくらっこ

※写真は風車マーカ付仕様

### 展示会・体感フェアを続々開催

全国各地で展示会・実演会・体感フェアを開催いたします。多彩な機械を取り揃えて、皆様のご来場をお待ちしております。

### 新車ご契約のお客様に抽選でプレゼント

キャンペーン期間中に、三菱の「トラクタ」「コンバイン」「乗用田植機」のいずれかをご契約いただいたお客様の中から抽選で300名様に「全国の美味しいジャパン」(地域名産品など)をプレゼントいたします。

期間

平成22年  
3月31日まで

※記念限定車には数に限りがあります。

当たると  
いいな!

### 読者プレゼント

いつもご愛読ありがとうございます。今号に登壇いただいた「水森かおり」さんのサイン入り色紙と「たこ焼き機」を3名様にプレゼント。手がるにクッキングお楽しみ下さい。ご希望の方はハガキで下記へどうぞ。

応募締切 2010年2月末  
応募先 〒141-0031東京都品川区西五反田1-5-1 五反田野村證券ビル6階  
三菱農機株式会社 営業本部「三菱農機だより」編集部



前号の当選者は下記の方々です。

おめでとうございます。

宮城県栗川郡……………平間由美子 様  
栃木県芳賀郡……………福田富子 様  
鳥取県鳥取市……………谷尾 栄 様



**三菱農機株式会社**

本社 鳥根県八束郡東出雲町大字揖屋町667-1  
営業本部 東京都品川区西五反田1-5-1 五反田野村證券ビル

☎0852(52)2111  
☎03(5759)8060

ホームページ <http://www.mam.co.jp/>

東日本三菱農機販売(株) 埼玉県北葛飾郡葛宮町桜田2-133-4 ☎0480(58)9524  
北海道支社 ☎0123(22)1234 関東甲信越支社 ☎0480(58)9521  
東北支社 ☎022(364)1188 東海支社 ☎052(445)4861

西日本三菱農機販売(株) 岡山県瀬戸内市邑久町豆田161-1 ☎0869(24)0805  
北陸支社 ☎0776(27)3078 九州支社 ☎0942(84)1888  
西日本支社 ☎0869(24)0820